

第2回 恵那市し尿処理施設あり方検討委員会 会議録

日時：令和7年8月29日（金） 午後2：00 から

場所：恵那市役所会議棟

1. 開会
2. あいさつ（委員長）
3. 議題
 - （1）し尿処理施設建設工事供用開始時期の設定
 - （2）藤花苑におけるし尿及び浄化槽等汚泥搬入量実績値
 - （3）計画処理量・施設整備規模
 - （4）処理方式
 - （5）他施設実施事例
4. 次回の委員会の開催予定について
令和7年12月（予定）
5. その他
6. 閉会（副委員長）

○ 会議の公開・非公開・・・公開

○ 出席者の数・・・8名中7名（以下のとおり）

区 分	所 属	役 職	氏 名	出欠
学識経験を有する者	一般財団法人 日本 環境衛生センター	環境施設計 画課長	小林 剛	○
学識経験を有する者	名古屋大学	准教授	小林 敬幸	○
既存施設の地域を代 表する者	武並地域自治区	会長	渡邊 勝則	○
既存施設の地域を代 表する者	藤区協議会	会長	伊佐地 静雄	○
既存施設の地域を代 表する者	山足自治会	自治会長	佐々木 資恩	○
し尿収集運搬事業を 代表する者	東海環境事業株式会 社	本部長	北川 寛明	○
行政機関	岐阜県恵那県事務所 環境課	課長	伊藤 明	欠
行政を代表する者	恵那市役所水道環境 部	部長	梅村 浩三	○

1. 開会

■事務局

定刻となったので、令和7年度第2回恵那市し尿処理施設あり方検討委員会を開会する。

委員8名の内、出席7名、欠席1名。当委員会設置要綱第6条第2項の規定により、会議の開催に必要な定足数を満たしている。

また、本日の委員会は「恵那市附属機関等の公開に関する要綱」により公開する。

委員会名簿、会議資料、議事録は、市ウェブサイトにて公開する。

2. あいさつ

■委員長

日本環境衛生センターの小林です。第1回目の委員会をウェブで参加とさせていただいたので、皆様にお会いするのは初めてとなる。第1回の委員会では恵那市の施設の課題と現状、それからどんなことについて検討していくのかということをご検討いただいた。本日第2回目は実際にどのような条件で、どんな整備方法で比較検討していくのかといったところを踏み込んで検討することになる。皆様の忌憚のないご意見を願います。

3. 議題

■事務局

議事の進行については当委員会設置要項第6条第1項の規定により委員長に願います。

■委員長

それでは私の方で進めさせていただく。委員の皆様の慎重な審議をお願いします。これより事務局から一括して説明する。ご意見ご質問等は説明の後にお受けする。

■事務局

（事務局及び中日本建設コンサルタントより資料の説明）

○質疑等

■副委員長

し尿処理水を下水処理場へ放流した場合に処理能力（主に量）は問題ないか。

→事務局

表4にある①から④案について、下水の受け入れ先が恵那市浄化センターを想定している。全体計画の処理能力が約12,800 m³/日で、2、3年古いデータになるが約9000 m³/日程流入がある。①案で30倍程度の希釈となると、約1000 m³/日増えることになり、希釈倍率も今後検討するが、受入れが厳しい可能性がある。③④案はもう少し希釈倍率が下がり総量が少なくなるため受入れ可能と見込める。その辺りは今後、下水道課と量と質の部分を検討する必要がある。

■委員

3ページの建設用地の選定、総合評価落札方式による事業者選定を実施する場合と書いてあるが、この意味を細かく説明していただきたい。

→事務局

事業スケジュールは建設用地の選定、総合評価落札方式による事業者選定を実施する期間は見込んでいない。用地については、現時点で建設用地が未定なため、用地の選定手続きによって時間を要する。総合評価落札方式については、現スケジュールでは価格で落札者を決定する一般競争入札を想定しているが、価格と技術を点数化して評価し、落札者を決定する総合評価落札方式にて実施する場合は、学識経験者等により構成された委員会の立上げ、各委員の評価のとりまとめ等を行う必要があり、一般競争入札に比べ時間を要する。

■委員

恵那市浄化センター内にし尿受入施設を建設する場合は、浄化センター付近の道路を大型車が何回も往復することが考えられる。道路も狭いため、安全性を考慮し、道路の拡張工事の実施についても考えていくべきではないか。

→事務局

とても狭い道であるということは認識している。下水道放流施設を建設する方向性になった場合は、検討を行っていく。

■委員

7ページの下水道人口のR6の実績値とR7の推計値の開きのその意味を教えてください。

→事務局

下水道人口は令和2年度に策定された岐阜県の污水处理施設整備構想の目標値であり、令和6年度の実績を加味していない値であるため、このような結果となった。ただし、下水道計画の行政人口については、恵那市人口ビジョンの数値から見直しを行っている。なお、今後は最新の下水道計画を踏まえ、計画処理量、施設整備規模等の見直しを行う必要がある。

■委員

搬入物の濃度の薄い浄化槽汚泥が多いとのお話があったが、濃度の影響により工事費に影響があるか。

→事務局

新たに施設を建設する場合は、現状の濃度のし尿等を処理できる施設を建設することになる。延命化の場合は、し尿の割合が高く濃いものを処理する建設当初のシステムを、薄いものでも処理が可能な処理方法に改造を行うため、新設と機械・電気工事に関する費用は変わらず、建屋の工事で差がつくと考え。

■委員

最短で整備完了が8年目で共用開始が9年ということだが、それまでは現状の施設に設備投資なり延命するお金を投入して稼働をしていくということでしょうか？

→事務局

そのとおりです。

■委員長

施設整備を行う場合の経済性、技術的項目及び環境負荷について、資料に示す項目以外でなにか意見はないか。私としては、2050年までのゼロカーボンシティを目指すことを市が推進していることから、脱炭素に関する内容を加えたほうがいいと考える。

→事務局

検討します。

■副委員長

整備方法によって汚泥が発生する方式、しない方式があり、汚泥の処理、運搬に係る費用も検討対象としたほうがいいのではないかと。現状の汚泥処理方法はどのような方法か。

→事務局

既存の汚泥焼却施設は休止する方向性で考えている。今後整備する施設の汚泥処理方法については、経済性、実現性を踏まえ検討する。

■副委員長

下水道料金を維持管理費の評価項目に入れることに関して考え方を教えて頂きたい。一般会計、下水道会計と会計が異なるのはわかるが、市の下水道課に支払う金額であるため、恵那市全体の負担額としては変わらないのではないか。

→事務局

ランニングコストの内容を検討し、次回の委員会にて示す。

■委員長

ランニングコストをどう設定していくのか、どの視点で整備していくのかっていうのは市民目線で行っていただきたい。また、市の支出として比較して行く方が適切かと思うので、財源の想定も含めて検討出来ればよい。

■委員長

評価の対象として下水道放流で4案、公共水域で2案あるが、評価の欄を見ると、①案と②案の違いが実質あるのか。やることは同じような形で処理方式も比較欄も同じような評価になっているがこの違いは何か？

→事務局

建てる土地が処理場内か外かだけの違いで、処理方式の違いはない。

■委員長

今回、検討委員会の所掌の中でどこに建てるかはさすがにこの検討会の中では難しい。そういう意味で①②は一つに絞って良い。仮に①を採用する場合の課題として、用地の取得にハードルが下がるとか、今後の検討の中の項目として残していければ良い。

→事務局

① 案と②案は1つにまとめる方向性で検討する。

■委員長

④案では生物処理までして下水放流とあるが、これは漁協との調整がつかない場合や下水道への影響が大きい場合とかに限られ、ここまでする必要はないのではないか。終末処理場の受け入れの量と質、そのあたりをコンサルがある程度計算するのか。

→中日本建設コンサルタント

業務としては今回そこまでは受けていないが、ボリューム的に受け入れができるかどうかぐらいのところまでは、あり方検討委員会にて方向性が絞られた後にお示しできたらと思う。下水放流の方式がいくつか絞られた中で水質等を検討し処理場への影響も検討できたらと考える。

■委員長

整備案6案を比較していくのが必要なのかという観点での話。下水道への影響が大きくないのに生物処理してまた下水施設で生物処理するというある意味インフラの二重投資になるものは検討対象から外しても良い。

このように類似の整備方案や比較検討の要否を整理した上で実質4つぐらいに絞り込んで検討したほうが良い悪いが明確になりやすいためこの形で進める。

■副委員長

下水放流する場合、下水処理場でのコストもかかるためコストの比較においては、下水処理場のコストも入れて比較するほうがフェアだと思うがどのように考えるか？

→事務局

下水道施設で処理するコストは下水道料金を支払うことで見込める。

■委員長

汚泥の処分で今後焼却処理を継続することが困難であれば、ランニングコストの比較の中に提示をしていただきたい。今、恵南衛生センターは民間に委託されているので、その委託費が同等のものとして考えられると思う。

→事務局

ランニングコストの比較の中に掲示する。

■委員

第3回の検討委員会では数字等を示した上でということだが、今出された意見を考慮した数値を示されるという意味か？

また、国の補助だが何パーセントを国に要求することができるのか？

→事務局

3回目の検討委員会では今あったご意見を踏まえ、金額も入れてお示しする。

また、国の交付金をいただいて事業を進めたいが、どの処理方式を選択するかによって1/2の交付金、1/3の交付金がある。その辺も次回にお示しする。

■委員長

他にございますか？なければ議題については終了する。以降の進行を事務局にお返しする。

4. 次回の委員会の開催予定について

■事務局

次回の開催予定は令和7年12月頃予定する。議題は、今回の意見をまとめ事前に送付する。お目通しいただき、色々なご意見をいただきたい。

5. その他

■事務局

委員報酬について説明

6. 閉会（副委員長）

次回の委員会に向けていろんな意見が出された。ありがとうございました。これをもちまして第2回恵那市し尿処理施設あり方検討委員会を閉会します。お疲れ様でございました。

15：20 終了